

## 第631回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2021年3月度 ——

- ◇ 開催日  
2021年3月15日(月)
- ◇ 議題  
＜テレビ番組＞  
「羽鳥×指原 みんなの夢アワード  
～まとめてかなえちゃう！スペシャル～」  
放送日時：2月21日（日）午後1時55分～3時20分OA  
（テレビ朝日系列24局ネット）
- ◇ その他

九州朝日放送株式会社

## 第631回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2021年3月15日(月)午後3時25分～4時45分

2. 開催場所 九州朝日放送 7階A会議室

今回は「新型コロナウイルス」感染防止（三密回避）の観点から、十分にソーシャル・ディスタンスを確保するため通常より広い会議室にて開催した。

### 3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	戸田 康一郎
副委員長	赤木 由美
委員	石井 靖子
委員	守田 有理子
委員	石橋 和幸
委員	藤村 まこと
委員	山崎 靖
委員	中山 裕二

欠席委員数 0名

### 放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣 靖
常務取締役	笹栗 哲朗
総合編成局長兼ラジオ局長	坂井 剛
報道情報局長	柴田 高宏
総合編成局 番組戦略部長	濱田 克則
総合編成局 番組戦略部プロデューサー	下川 博之
ケイ・ビー・シー映像 チーフディレクター	坪内 大輔
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	石橋 聡
番組審議会事務局（視聴者・広報室）	松永 俊郎

#### 4. 議 題

##### (1) テレビ番組

「羽鳥×指原 みんなの夢アワード～まとめてかなえちゃう！スペシャル～」

放送日時：2月21日（日）午後1時55分～3時20分OA

（テレビ朝日系列24局ネット）

##### (2) 3月・4月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

##### (3) 2月 視聴者・聴取者応答状況の報告

##### (4) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- コロナ禍で暗い話題が多いなか、未来志向で愛や勇気を伝え、多くの視聴者に感動を与えた。人が人を思うこと、人と人がつながることで生まれる力を一貫して訴える内容だった。企画に賛同した歌手のA I さんや石川雄洋選手（元横浜 DeNA ベイスターズ）がそれぞれの「夢」に寄り添う様子がしっかりと伝わっていた。
- 「ベイスターズの選手にお礼を伝えたい」という小児がんと闘う野球少年のエピソードは、一番感動した。病気ですらくとも絶望せず、前向きに、快活に頑張る少年の姿に心を打たれた。運命を悲観せず、爽やかな笑顔で日々を過ごす姿にただただ感動した。
- 小児がんと闘う野球少年のエピソードは、考え方や物事の受け止め方で、こんなに周囲に勇気や希望を与えられるのだなと改めて実感した。幼い弟が「(兄の) 夢がかなってよかった」というシーンは感動的だったし、夢に応えた石川選手が逆に少年から勇気をもたらすという姿は印象的だった。
- 「A I のライブに 89 歳の祖母を連れていきたい」の看護師は、「なんのために生きているんだろう」と考えることもあったとのこと。しかし、コロナ禍で多くの人が同じようなことを考えたのではないか。そうした思いにくじけず、下を向かず、前を見ることの大切さを伝えたいという制作サイドの意図を感じた。
- MCの羽鳥慎一さんと指原莉乃さん、ゲストの宮田俊哉さん（Kis-My-Ft2）3人にそれぞれ好感が持てた。バランスがよかった。羽鳥さんのキャラクターは嫌味がなく、好感度が高く、指原さんも幅広い年代を対象とした番組には適切な人選だと思った。
- 事前に「みんなの夢 1000 個キャンペーン」として、一般視聴者の夢を募集する取り組みは非常に良かった。個人の努力ではどうにもならないことがテレビの力でかなえられて良かった。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- タイトルにある「アワード」は、「賞」や「授ける」との言葉をイメージする。みんなの夢をお手伝いするという趣旨と「アワード」のタイトルが合っていない気がした。

- 「A Iのライブに89歳の祖母を連れていきたい」看護師の夢をかなえるライブ会場の2階席に、当事者以外の姿が見えた。「2人だけ」という設定だったので気になった。
- 宮田さんの夢「思い出の極上グルメをもう一度」で紹介された「割烹よし田」のエピソードは、インパクトに欠ける印象を受けた。
- コロナ禍で、MCや取材協力者の出演を踏まえ、取材地の全てが関東圏だったのでだろうが、一つでも九州・沖縄の人の「夢」もかなえて欲しかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- タイトルの「アワード」という言葉選びについて、色々な思いを持つ人が「夢」をノミネートする「祭典」というイメージで言葉を選んだ。
- 「ベ이스ターズの選手にお礼を伝えたい」という小児がんと闘う野球少年の夢に応じた石川選手は、コロナ禍に加え、自身も戦力外通告を受けるなど大変な時期だが、取材後には「少年にパワーをもらった」「取材を受けてよかった」とのことだった。
- 「看護師の夢をかなえるライブ会場の2階席の様子が気になった」との指摘について、当事者たちの表情を撮影する際には2階席にカメラが向いてしまう。喜ぶ祖母の姿を見たいとの家族が映り込まないように撮影すべきだった。
- インパクトに欠けたとの指摘を受けた「割烹よし田」のエピソードだが、ブレイクタイムの役目もあった。感動が続く構成なので、少しくすっと笑える要素も加えたかった。
- たくさんの「夢」を応募いただいたが、コロナ禍で、実際には取材を受けられないという人もいた。夢を「応募した側」と「かなえる側」両者のマッチング作業にはとても苦労した。
- 前を向き、顔をあげようと思える番組にしたいと取材・制作に挑んだ。羽鳥さんや指原さんはそれぞれの「夢」「思い」に寄り添う出演者。だからこそそのキャスティングは狙い通りだったと思う。

などの説明をしました。